

佳作

父の料理と家族の絆

福井県 福井市至民中学校三年 石黒 心都羽

私の父は、今年の春から仕事で期間限定の単身赴任をしています。毎月、一週間くらいを自宅で過ごし、あとの三週間は県外で暮らしています。これまでこんな風に家族が離れて暮らすことはなかったのですが、私の家族にとって初めての経験で、四か月が経ちました。この四か月間でも、起きた家族の変化や、離れてみて分かったことなどがあります。

まず、父が料理をするようになったことです。元々簡単な炒め物などは得意だったので、最初は肉野菜炒めなどをよく自炊で作っていたようです。自炊した料理を写真に撮って、携帯電話で家族に送ってきていたのですが、毎日よく似た炒め物が送られてきていました。しかし、二か月くらい経つと、自宅に帰ってくる度に母にレシピや材料を聞き、細かくメモをし県外へ戻り、だんだんと手の込んだ料理

の写真が送られてくるようになりました。手作りハンバーグや、たれに漬け込んだチキンソテー、さらに母からのアドバイスで、身体に良さそうな野菜やきのこを食材に使うようになったり、節約や時短のことも考えたりと、私から見ても父の成長が見てられました。

また、父が手の込んだ料理を作り出したのと同じ時期に、家族だけが見ることのできるSNSに、父が料理の写真を、記録を兼ねて載せるようになりました。そのSNSではコメントを書くことができ、父の料理コレクションに、家族で思い思いに感想を書いたりとりをするのが我が家の日課となっています。父がSNSに投稿していることで、家族でそれを見て笑い合う時間があり、父の話題も多く、我が家ならではの新しい家族のつながりを感じています。そこには、家族が離れていても近くにいるような安心感があります。

父の単身赴任で、大人になっても成長している父の姿を見たり、離れていてもつながれる、SNSを使った現代社会ならではの家族だんらんの仕方をすることもできました。

家族が離れて暮らすというのは、一見マイナスな

イメージに捉えられがちです。もちろん、離れていることによる不便さや不自由さもあります。ですが視点を変えると、離れてみたから発見できた家族の絆もありました。そんなに遠くないうちに、また父と一緒に暮らす日々に戻るとありますが、その時には「家族そろって暮らす」という、当たり前のようなことに感謝を感じられる気がしています。それは、離れている今を経験しなかったら感じないものかもしれません。

また家族そろって暮らす近い将来、父がこの単身赴任で身につけた腕前で、家族に美味しい料理をふるまってくれるのを心待ちにしながら、今日もみんなで仲良くつながって、楽しく毎日を過ごしている我が家です。